

第57号  
徳島県障がい者  
社会参加推進センター  
TEL 088-631-6266  
FAX 088-631-6211  
発行人 久米清美

# 年頭のご挨拶

社会福祉法人  
徳島県身体障害者連合会  
理事長 久米 清美

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、日ごろから、当連合会の活動にご尽力、ご支援をいただいておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は障害者雇用が大きな社会問題となりました。障害者雇用に関して、徳島県は、障害者就労施設からの優先調達を積極的に推進しています。行政機関に障害者就労施設からの物品の優先的調達を義務付ける、障害者優先調達推進法施行後の5年間で、調達

の機関・独立行政法人の更なるご協力が必要と考えています。そこで、当連合会は、これまで、とくしま障害者授産支援協議会と連携して、市町村団体・大学等に直接赴き、お願ひしてまいりました。今年も、県、関係団体としっかりと連携をとりながら、市町村はじめ

# 新年のご挨拶

徳島県保健福祉部  
部長 久山 淳爾

新年明けましておめでとうございます。日頃は、本県の障がい福祉行政の推進に、格別の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。昨年は、平成28年4月に県が独自に制定した「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」の理念を実現すべく、平成30年4月から6年間を計画期間とする「徳島県障がい者施

関係行政機関に更なるご協力依頼を行ってまいります。会員の皆様におかれましては、当連合会の取組みに、なお一層のご理解、ご支援を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。今年一年が皆様にとりましてすばらしい年になりますようご祈念申し上げます。

策基本計画」を策定するなど、本県の障がい福祉行政にとりまして、大きな節目の年となりました。県では、本計画に、「地域における『心のバリアフリー』の促進」「地域で安心して暮らせる環境づくり」「障がいの自立と社会参加の促進」「障がい福祉サービスの充実」等を重点項目として盛り込み、障がいの有無

に関わらず、全ての県民が互いに人格や個性を尊重し、活躍できる徳島づくりに取り組んでいるところです。さて、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催も、いよいよ来年に迫りましました。「オリンピック・パラリンピック」は、「スポーツの祭典」であると同時に、「文化の祭典」でもあることから、県におきましては、昨年9月に「障がい者芸術・文化活動支援センター」を「障がい者交流プラザ」内に開設し、芸術文化の専門性を有する職員による「技術的な指導・助言」や、作品の展示方法や著作権保護の研修会開催による「支援者の育成」に取り組んでいるところです。また、本年2月から3月にかけては、県立近代美術館において「アール・ブリュット展」や「障がい者アーティストの卵」発掘展」を開催するとともに、「心の交流の輪」を広げる

ため、特別支援学校と小中学校の児童生徒が共同制作した「藍染め作品」の展示を、あわせて行うこととしていきます。県といたしましては、今後とも「共生社会の実現」に向け、積極的に各種施策を推進して参りますので、皆様におかれましては、引き続き本県の身体障がい者福祉の充実のため、御尽力いただきます。結びに、この1年が皆様にとりまして、良い年となりますことをお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



# 障害者差別解消法のさらなる理解を

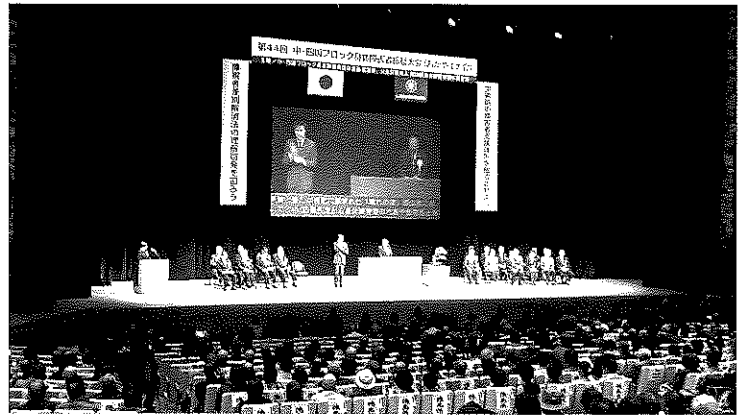
～当事者目線での制度運用～

第44回中・四国身体障害者福祉大会 おかやま大会

## 大会スローガン

◎災害時の障害者支援体制を確立させよう

◎障害者差別解消法の理解啓発を図ろう



「互いの人格と個性を尊重」

平成30年11月16日(木)、岡山県の倉敷市民会館において第44回中・四国身体障害者福祉大会おかやま大会が開催され、中・四国各地より約1,900人の仲間が集い、徳島県から総勢145人の方が参加しました。第1部式典で大会長表彰が福祉功労者に贈ら

れ、本県から木川美千代氏、木村博氏、前田良平氏の3名が受賞されました。第2部議事では、議長団選出の後、提出議案、大会宣言案、大会決議案が、それぞれ満場一致で原案どおり採択されました。次年度は11月6日(水)、愛媛県の松山市民会館で開催予定。

## 大会決議

1. 障害者などの災害時要支援者に十分配慮した防災、減災対策の総合的な推進を図るとともに、地域の障害者等の意見を反映した避難所の設置・運営体制の早期整備並びに災害時に要援護者が安全に避難できる体制整備を図るよう要望する。

2. 障害者差別解消法の一層の普及啓発を図るとともに、実効性を確保するための措置の導入や零細事業者の合理的配慮の提供を促進するための支援制度の創設を要望する。

3. 障害者の自立と社会参加の促進のために、J R 障害者割引制度の対象拡大やJ R 乗車券の購入方法の改善を要望する。

4. 有料道路の障害者割引制度について、貸切バスや軽トラック等を割引対象に追加すること並びに障害者手帳を提示することによって障害者割引が受けられるよう要望する。

障害者が地域で、生きがいを持ち安心して生活できるように障害者施策の

## 大会宣言

更なる充実をめざし、以上決議する。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けて障害者理解に関心が高まる今日、中・四国各地域から多くの身体障害者及び関係者が、ここ岡山県倉敷市において一堂に会し「第44回中・四国身体障害者福祉大会(おかやま大会)」が開催されることは、誠に意義深いことである。本年7月には、記録的な集中豪雨により中・四国各県で多くの仲間が被災され、尊い命が奪われた。障害特性に対応した情報伝達の確保や福祉避難所の充実、平時からの関係機関・団体等との連携体制の構築など、防災・減災対策の一層の充実を強く求めるものである。障害者差別解消法が施行されて2年余りが経過したが、障害を理由とした差別を禁止し、合理的配慮の提供を規定した同法の意義は極めて大きい。しかし、制度の周知・啓発はいまだ十分とは言えず、国及び地方公共団体が障害者差別解消に向けた啓発活動に更に積極的に取り組むよう

求めていく必要がある。今後、障害者差別解消法が国民的理解のもと地域社会に定着し、地域の実情に即した運用がなされることを期待する。このような時にあって、我々障害当事者団体は、関係機関や関係団体との連携を図り、障害者施策の更なる前進を図っていく必要がある。私たち中・四国ブロックの障害者団体は、地域の住民の理解と協力を得ながら、障害の有無に関わらず人格と個性を尊重し支えあう共生社会の実現を目指し、一致団結して力強く行動することを誓い、ここに宣言する。

## 多様性への対応

～教育現場からの取り組み～

第20回中・四国ブロック身体障害者相談員研修会

平成30年10月5日(金)、広島市において標記研修会が開催されました。まず、明石市障害福祉課の金課長より、「障害者差別解消法の現状と課題について」と題して、障害者差別解消法の

第44回中・四国身体障害者福祉大会がま

平成30年11月16日

第44回中・四国身体障害者福祉大会がま

ここに宣言する。

平成30年11月16日

第44回中・四国身体障害者福祉大会がま

ここに宣言する。

平成30年11月16日

第44回中・四国身体障害者福祉大会がま

ここに宣言する。

平成30年11月16日

第44回中・四国身体障害者福祉大会がま

ここに宣言する。

平成30年11月16日

第44回中・四国身体障害者福祉大会がま

ここに宣言する。

平成30年11月16日

第44回中・四国身体障害者福祉大会がま

ここに宣言する。

平成30年11月16日

第44回中・四国身体障害者福祉大会がま

ここに宣言する。

平成30年11月16日

第44回中・四国身体障害者福祉大会がま



障害とは個性

概要、明石市独自の障害者配慮条例について、現場での実例をあげながら説明。合理的配慮には互いが尊重し、環境整備も含め双方が了解できる折り合いの付け方が重要とのことでした。午後は、「身体障害者の支援とアクセシビリティについて」として、広島大学の山本准教授の講演があり、広島大学の取り組みから多様な障害特性、環境、制約などの事例をあげ、差別解消法に基づく対応要領についてお話がありました。多様性がある社会は強い社会であると言われており、この先駆的な取り組みは様々な場面で活用できるのではと感じました。次年度は、10月3日(木)に岡山市で開催予定。

平成30年度  
身体障害者相談員等研修会

平成30年度の身体障害者相談員等の研修会が、11月1日に西部圏域、11月9日に東・南部圏域を対象に開催されました。

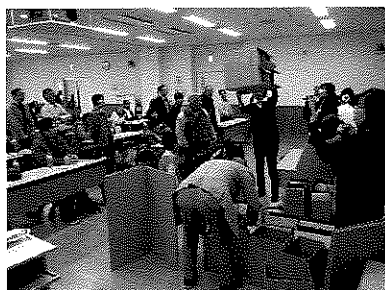
はじめに、「障害者差別解消法と障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」をテーマに徳島県障がい者相談支援センターの数藤主任より、法律制定の経緯、制度理解のポイント、徳島県の取組みなどについて具体例を交えた講義がありました。



障害特性に応じた創意工夫



ポッチャ体験



段ボールベッドの組立体験

義では「身体障害者とスポーツ」と題して障害者スポーツの歴史や現状、効果などの説明の後、参加者が実際にポッチャ競技を体験しました。幅広い障害特性に対応できるように開発された障害者のニュースポーツでパラリンピックの正式種目にもなっている注目の競技です。続いて徳島大学創新教育センターの金井助

教より、「防災と障害者」をテーマに講義があり、かつてない規模の災害が増え対策の見直しと臨機応変な対応が求められる。逃げ遅れのメカニズムや障害特性に応じた避難や備え、アプローチについて具体的な説明がありました。また、近年

避難所の環境改善で注目されている段ボールベッドの組み立てを参加者自身が行い、手順や強度を体験し利便性の高さや安全性を確認、障害者にとってベッドは非常に有難く心身への負担軽減になるとの声が寄せられました。

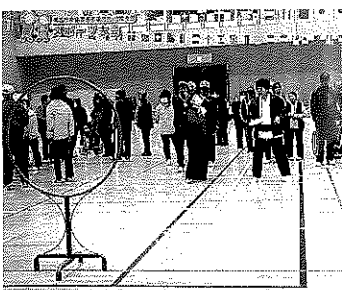
共に助け合い、共に生きる



美馬市身体障害者連合会穴吹支部

支部長 大西正之

私ども、穴吹支部（会員310名）は地域の障害者の福祉向上のため一致団結し、日頃より各種事業に取り組んでいます。理事15名、評議員22名、監事2名、事務局1名、計40名の役員を配置しています。役員を問わず協力しながら各地域担当者との連携を密にしています。本年度の事業としては、1. 総会、役員会及び協力員会、2. 組織活動の充実、3. 各種研



スポーツ大会

穴吹支部をはじめ、県、市の障害者団体において永年に亘り、ご指導をいただいたおりました故原宗一氏の志を受け継ぎ、氏の座右の銘であった「奉仕こそ我が

車いすバスケの魅力

健康者もはまる激しさ

徳島車いすバスケットボールクラブ

キャプテン

後藤信吾

東京2020パラリンピックを控え、車いすバスケットはわかに盛り上がりを見せています。車いすバスケットを題材にした井上雄彦の連載漫画「リアル」が人気を後押しし、ここ数年で健康者の競技人口が増えています。



車いすバスケットは、健康者と障害者が同じ土俵でたたかうことのできる数少ないスポーツです。コートやボールはふつうのバスケットと同じです。ひとたび車いすに乗り、コートに立てば、障害の有無に関係なく相手の身体能力の高さや人間力を実感できます。車いすバスケの独特な



命」を道標として、尚一層組織の充実化、会員相互の交流と社会参加を目指し頑張る所存ですので、ご支援ご協力をお願いします。

ルールとして、障害の程度が異なる選手がチームを組んで戦う「持ち点制度」があります。「障害が最も軽い選手は45点」「障害が最も重い選手は10点」というように、0.5点きざみにそれぞれの選手に「持ち点」を与え、試合中にコートの上にいる5人の選手の合計点が14点以下になるよう定められています。2018年7月から、健康者もメンバーとして登録できるようになりました。

専用の車いすで走る・廻る・ぶつかりあう、圧倒的なスピードと迫力を是非一度体験してみてください。

